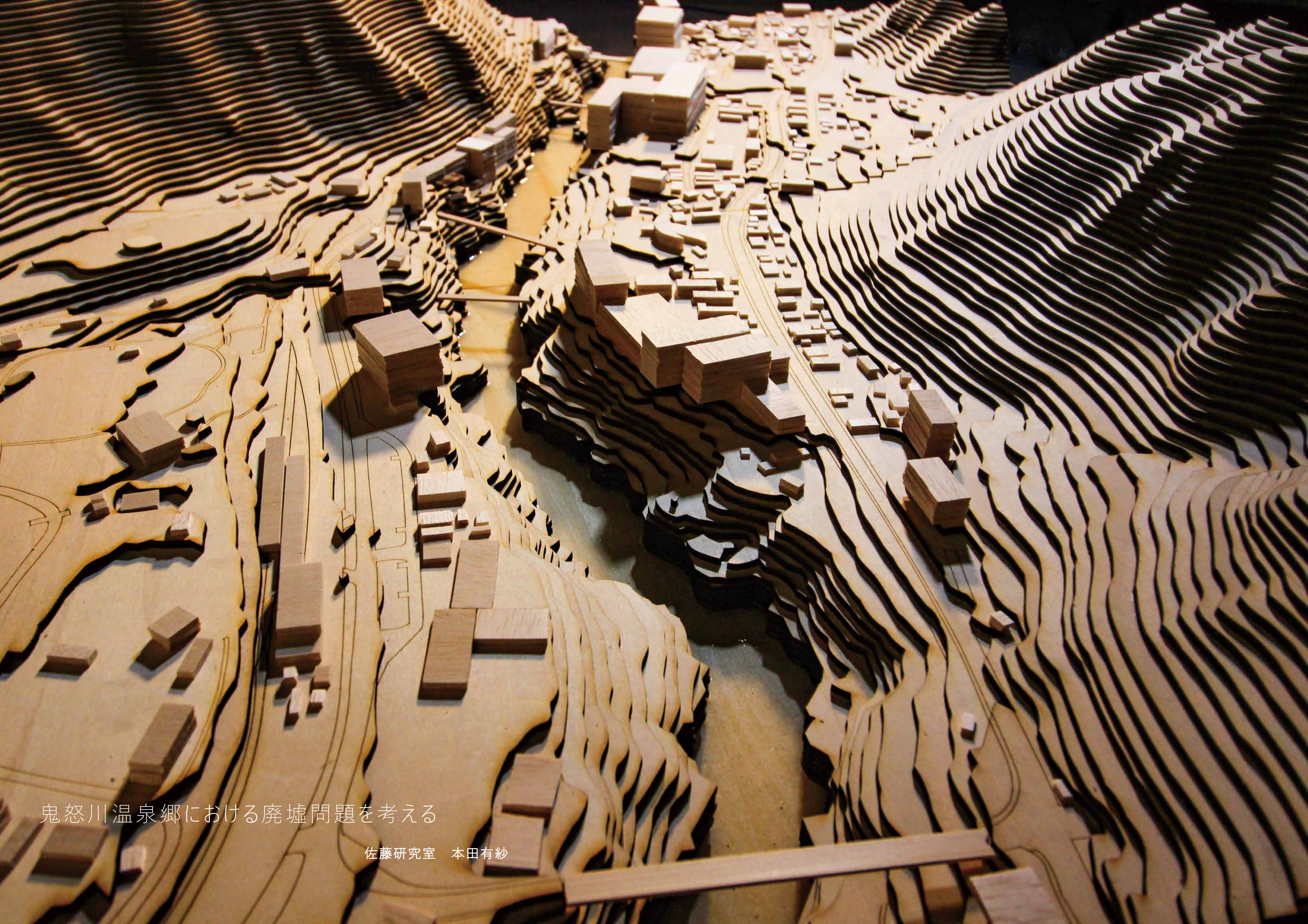




鬼怒川温泉郷における廃墟問題を考える

佐藤研究室 本田有紗

研究背景

自身の地元である栃木県にある観光地の一つということもあり、鬼怒川温泉は身近な旅行先であった。家族旅行でスキーに行くときに宿泊したり、日光へ行く際に立ち寄りたりもし、かつてはほぼ毎年訪れていた。書店で特集が組まれたガイドブックを見かけたりと、個人的には、観光地として人気である印象であった。

しかしある日、ニュース番組で鬼怒川温泉の廃墟が問題となっていることを知った。上空から撮影された映像で、老朽化の様子が鮮明に写し出されているのが印象的であった。そして、いつも利用していた道沿いにも廃墟が立ち並んでおり、きちんと温泉街の風景を見たことがないことに気付いた。

また、長野県の信州戸倉上山田温泉や石川県の粟津温泉など、他の温泉街でも同様に廃墟化が問題となっていることも知り、全国的に深刻な問題であることがわかった。そこで、この鬼怒川温泉を例に廃墟問題について考え、全国の温泉街の廃墟問題の解決のために一石を投げたいと思う。

対象地域



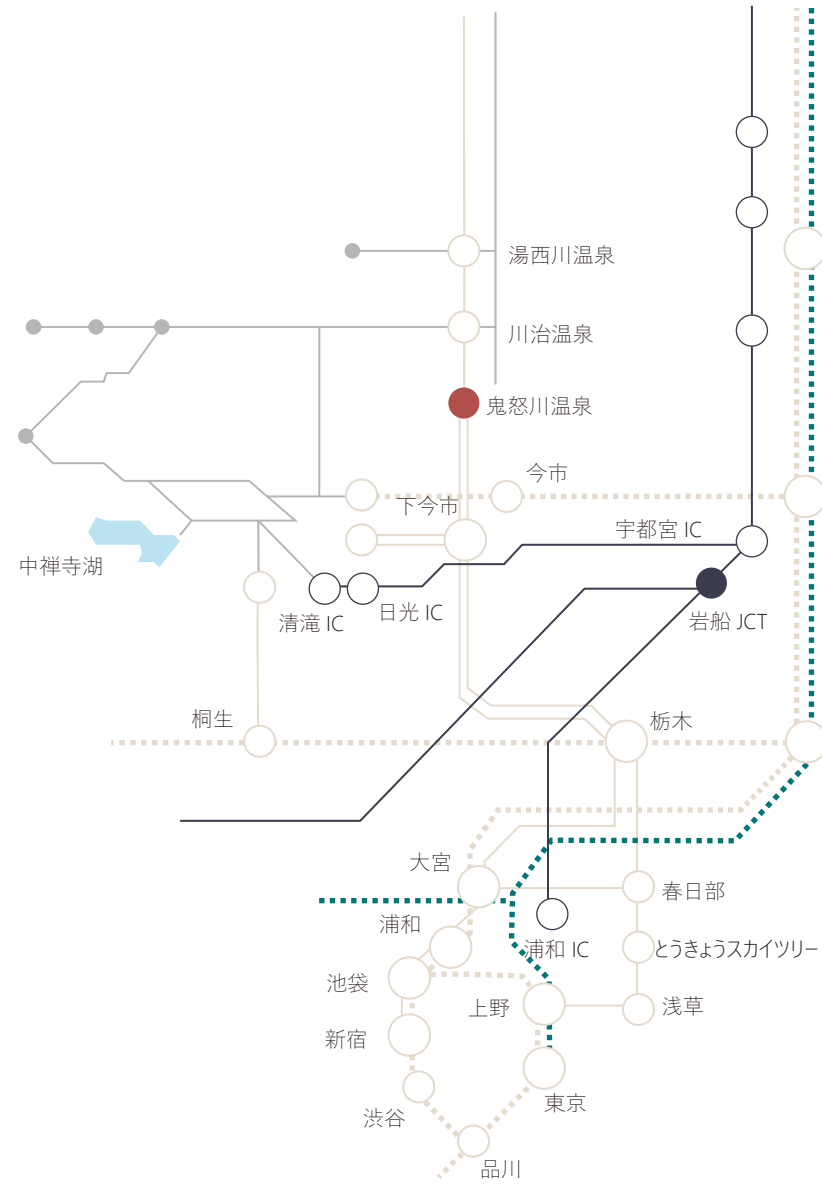
日光市

面積	1449.83 km ²
人口	76154 人
人口密度	52.5 人 / km ²
市の木	もみじ、シラカンパ
市の花	ニッコウキスゲ、ヤシオツツジ
市の鳥	カワセミ、ウグイス
市の魚	ヒメマス、イワナ

対象地域は、栃木県日光市にある、鬼怒川温泉。県の北西部に位置する、山あいの地域である。現在にの日光市は、栗山村、藤原町、今市市、足尾町、旧日光市が合併して成立したものであり、鬼怒川温泉は藤原町にあたる。

古くは、日光詣帰りの大名や僧侶のみが利用可能な温泉であった。明治時代になって一般にも解放されるようになり、源泉も次々に発見された。昭和に入り、旅館やホテルが開業し始め、次第に温泉地として発展していった。

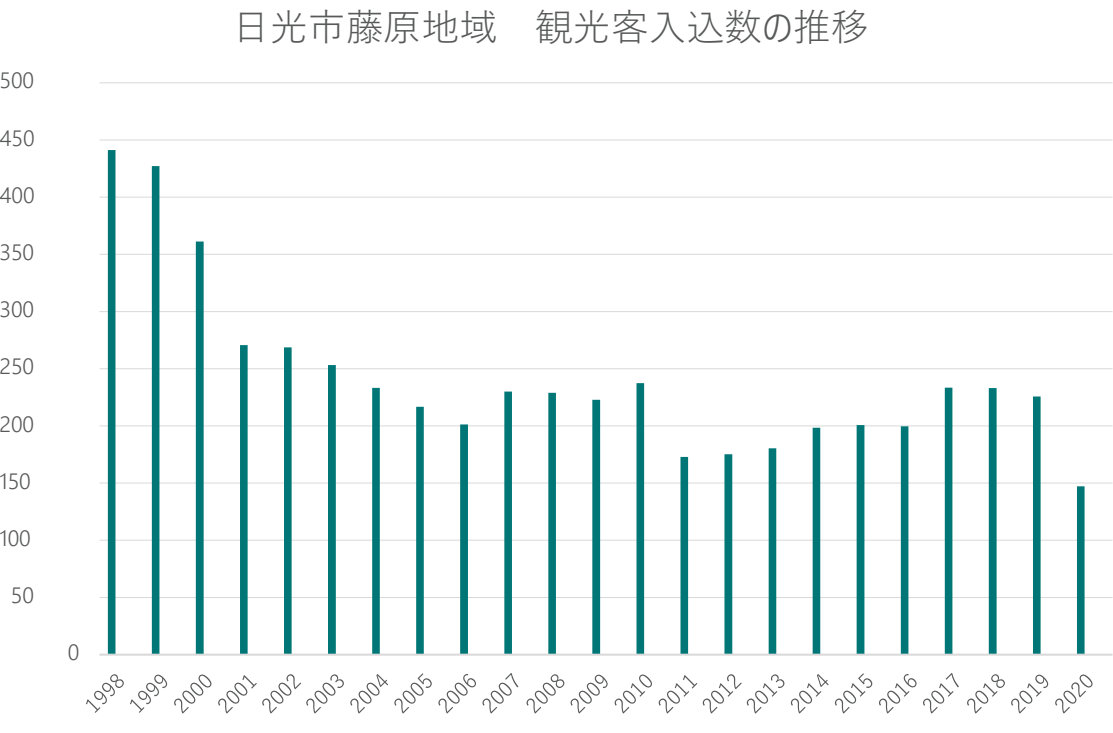
東京から特急も運行している。JRの新幹線、在来線で東京から約2時間、東武鉄道のスーパシア日光号、スーパシアきぬがわ号で乗り換えなしで新宿、池袋から約2時間であり、都心からのアクセスも良好である。



同じ市内や近隣には、スキー場やレジャー施設、世界遺産である日光東照宮、中禅寺湖もあり、観光業が盛んである。県外からの観光客はもちろん、遠足やスキー合宿に利用されることも多いため、県民にも親しまれている場所である。

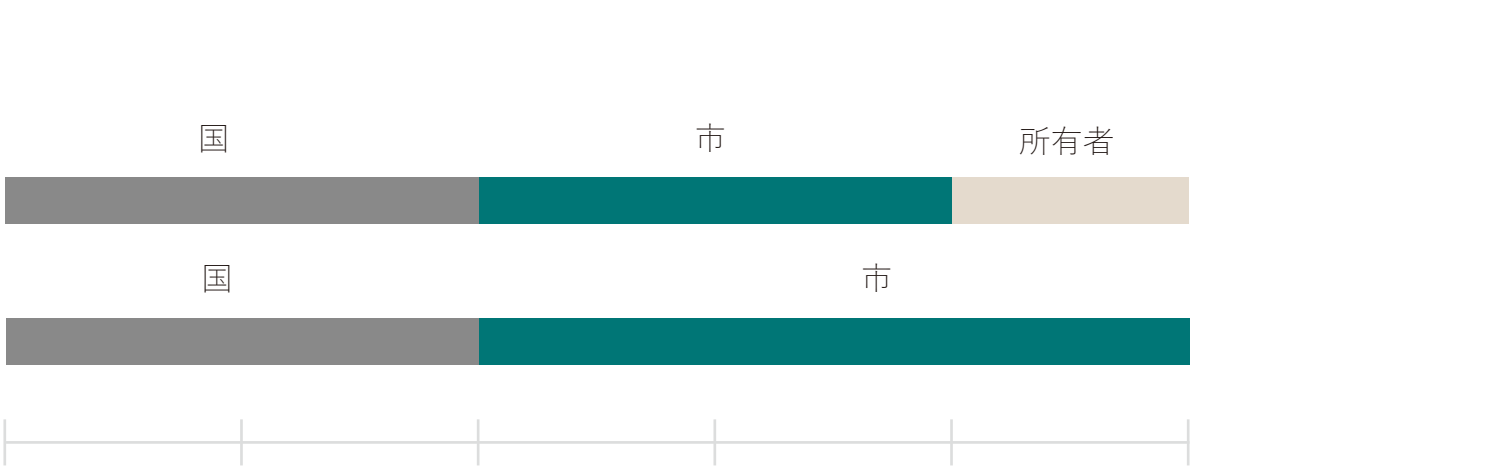


対象地域の課題・現状



廃墟の取り壊しには、1棟あたり2億円が掛かる見込みであるということもあり、放置されている。国や市が撤去を行う行政代執行も検討されているが、廃墟となっている建物の所有者が不明であるため、市の負担が大きく、困難であるとされている。

星野リゾート界鬼怒川や、大江戸温泉鬼怒川観光ホテルのように、大手企業の参入により廃墟化を免れたり、再び息を吹き返した建物もあるが、多くの廃墟が放置されている。



行政代執行法で撤去する場合の費用の負担

鬼怒川温泉で課題となっているのが、温泉街の一部の「廃墟化」である。以前は宿泊施設として使われていたものの、現在は放置されており、老朽化が進んでいる。特に、鬼怒川沿いに立ち並ぶ廃墟群は、対岸で経営されている旅館やホテルとの対比も相まって、異様な雰囲気だ。

バブル崩壊や、多くの旅館やホテルが融資を受けていた足利銀行の経営破綻、東日本大震災等の影響で、観光客数は減少傾向である。



計画地とその現状

計画地として、新たに橋を架ける場所を2つ、新たな拠点を建築する場所、廃墟となっている建築のある場所を4つに分けて設定する。

新たに橋を架ける場所は、川岸や、付近の様子を考慮し、選定した。計画エリアの上流、下流にそれぞれ異なった橋を設計する。

新たな拠点を建築するのは、公園付近。現在は、駐車場やアパートがあるが、古く、入居者も少ない様子が見受けられる。この公園との関係性も含め、建築を行う。

廃墟となっているのが特に目立つのが、この4つの場所である。それぞれ使われなくなった年代に違いはあるものの、古いものは、20年以上も放置されたままであり、老朽化が顕著である。



新たな拠点を建築する敷地付近
公園として整備されている



元湯 星のや
2010年廃業



鬼怒川第一ホテル
2008年閉館、のちにグループ本部が倒産し、廃業



きぬ川館本店 かっぱ風呂
1999年廃業



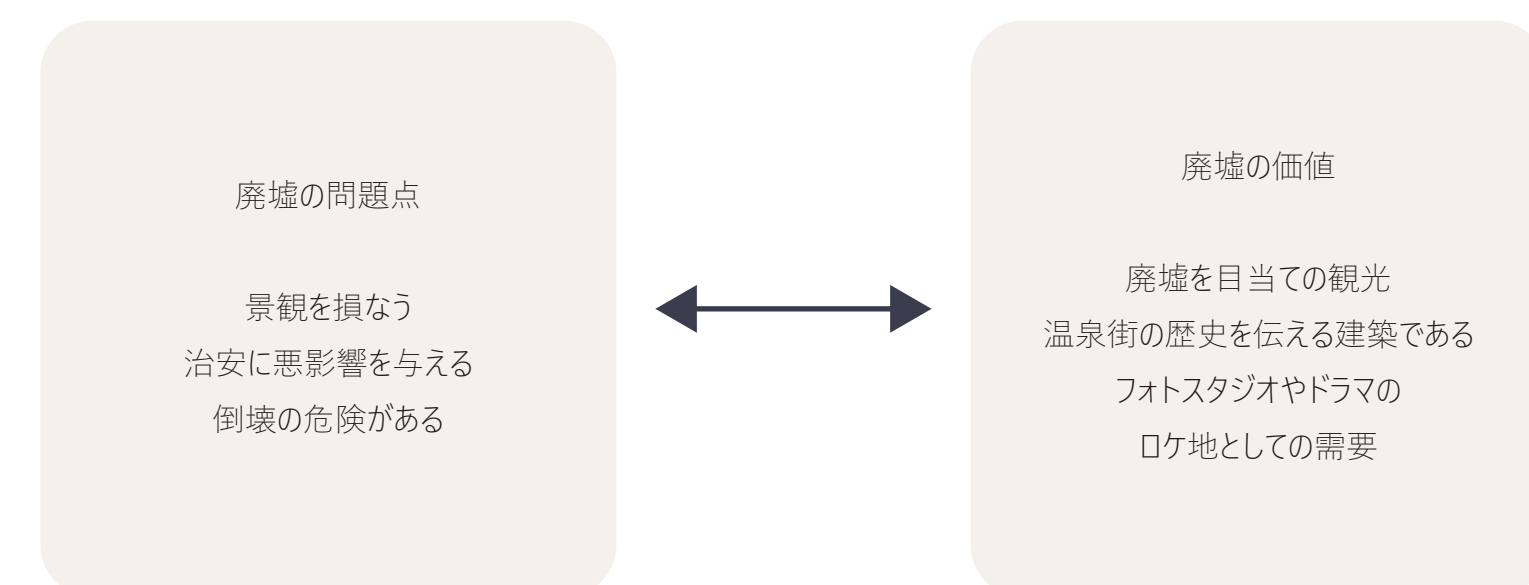
鬼怒川観光ホテル
2010年閉館



コンセプト

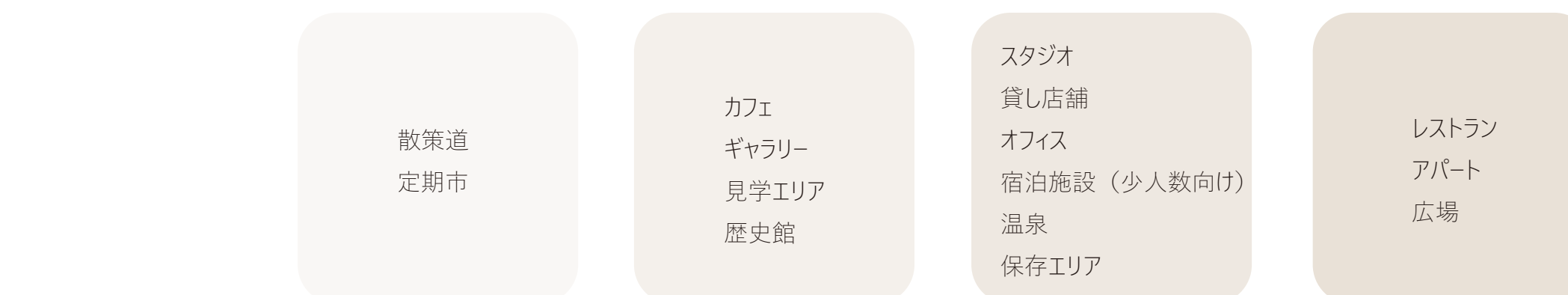
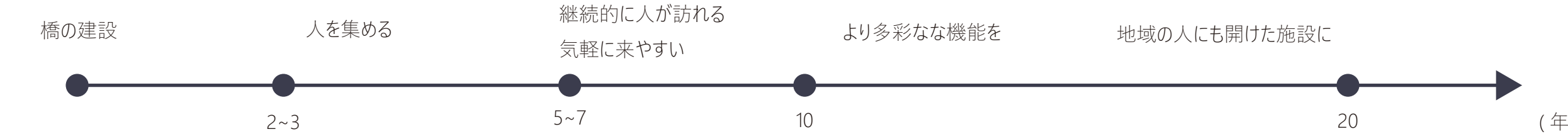
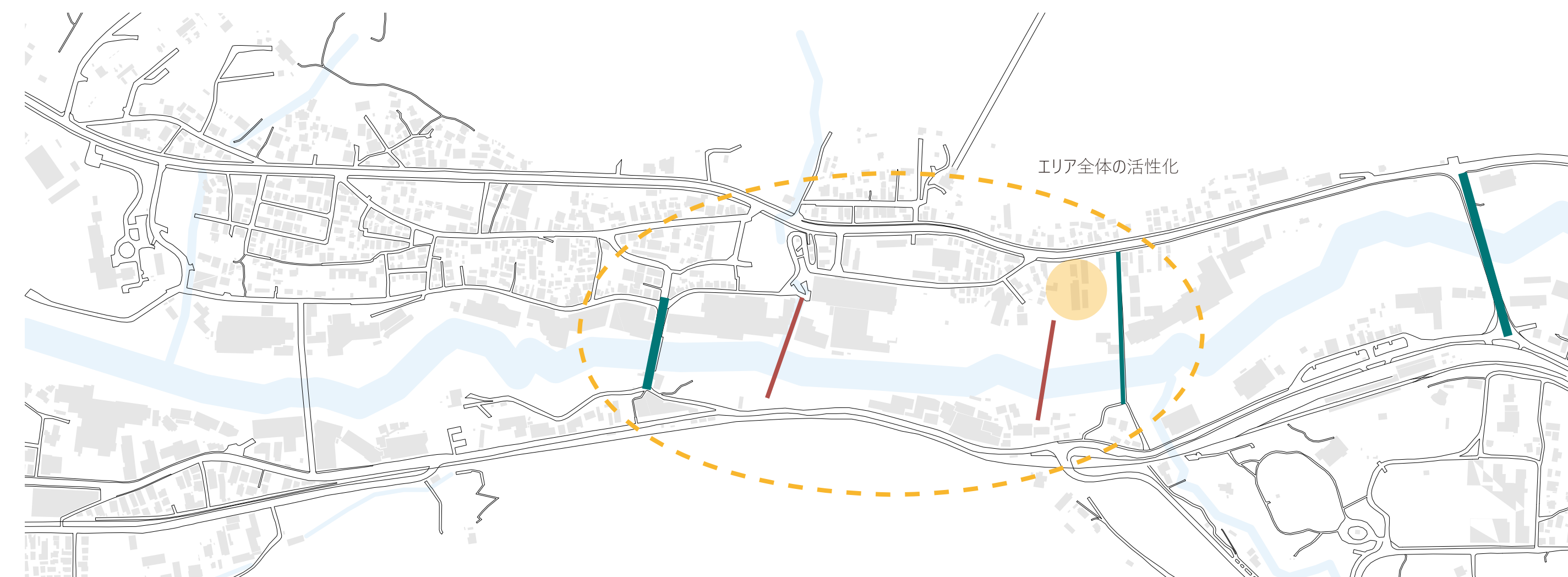
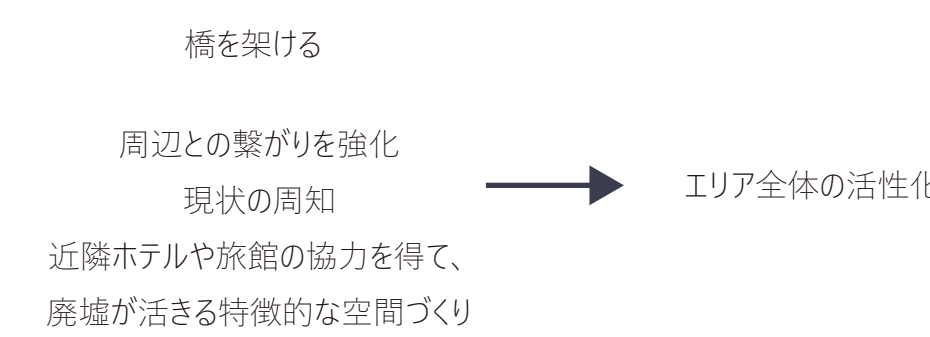
コンセプトは、「廃墟と共存する建築」である。

鬼怒川温泉の廃墟群は、景観や安全性の面から問題視されている一方で、この廃墟群を見るために訪れる人もいたり、観光としての需要もあるとらえることができる。
そこで、この廃墟群を、活用されていない建築である空間資源であると同時に、廃墟資源としても捉え、廃墟問題の解決を考えていく。

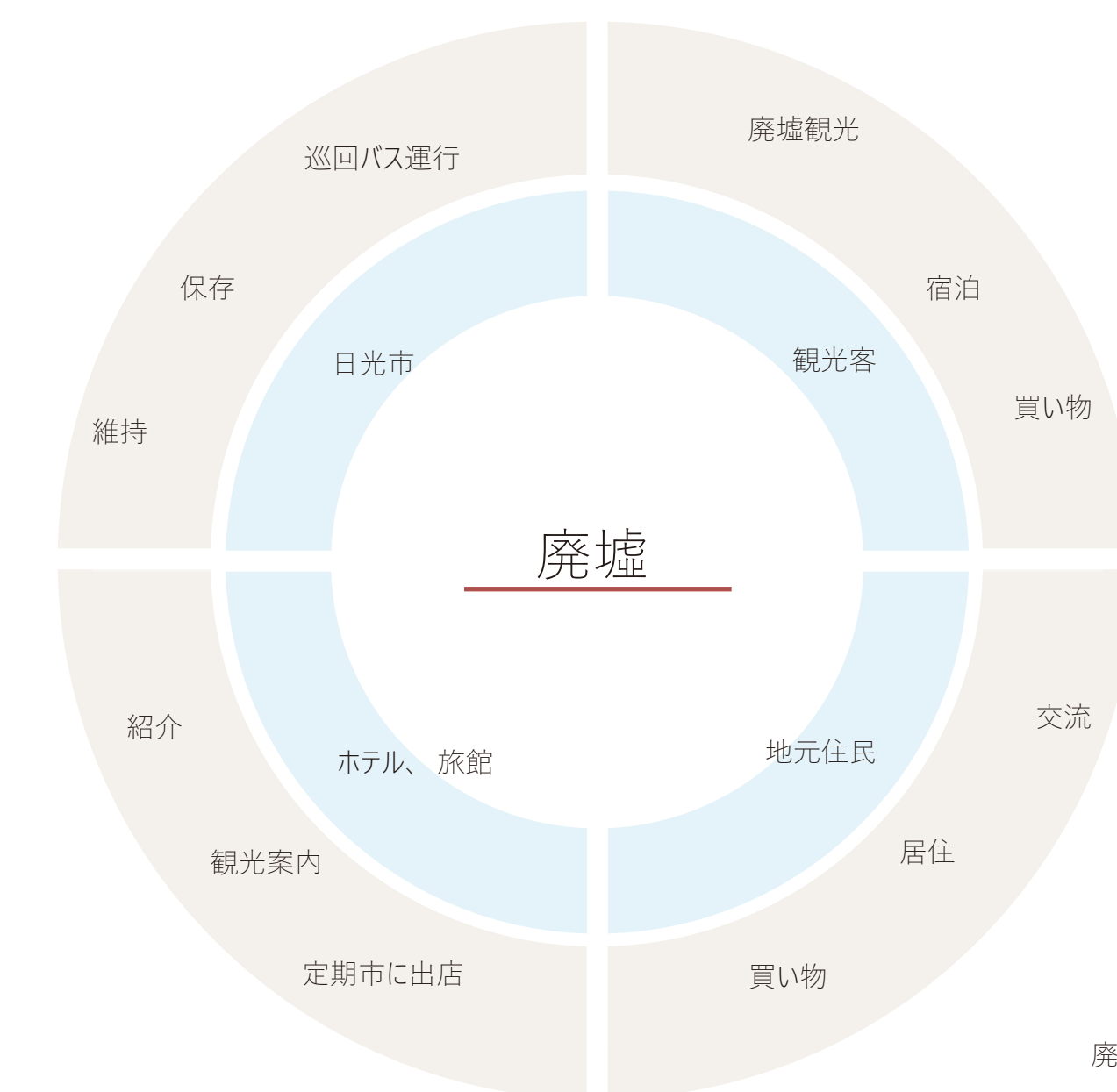


計画概要

- 01 橋の設計
02 新たな拠点の設計
03 鬼怒川観光ホテル
04 鬼怒川第一ホテル
05 きぬ川本館かっぱ風呂
06 元湯 星のや
- 01 橋の設計、02 新たな拠点の設計、03～06 廃墟部分の計画を行う。
- 全体としては、新たな橋を架け、人の流れを増やし、訪れる人に現状を知る機会を設ける。そして、近隣ホテルや旅館の協力も得て、計画を進めていく。



橋の建設から、20年を目安に計画を進める。
廃墟の各部分をそれぞれ、そのまま保存して見守っていく、手を加えて現状維持、改装、撤去、撤去後に新築する、5つのエリアに分け、機能も徐々に増やしていく。

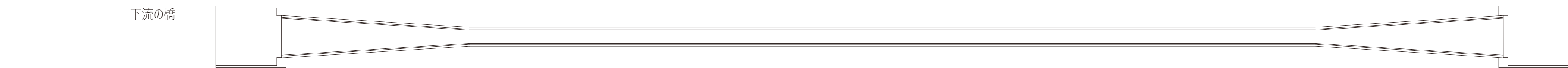


廃墟を中心に、それぞれの立場から様々に関わっていく。

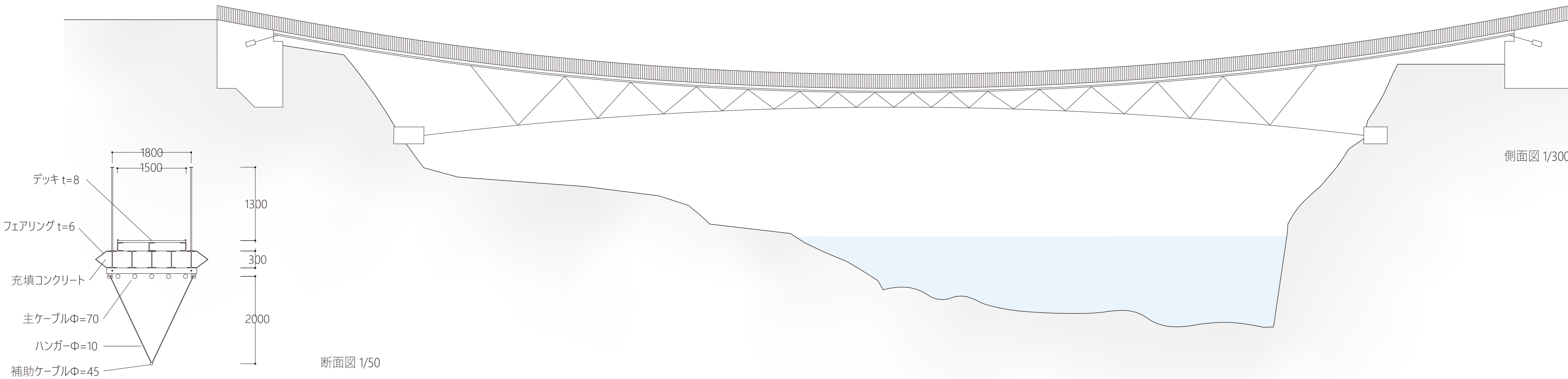
より川を越えた人の移動ををスムーズにするため、新たに2つの橋を鬼怒川へ架ける。
どちらも人道橋で、鬼怒川の景観に配慮し、薄く、圧迫感のないデザインとする。

下流へ架ける橋
全長 130m
モノストーム式吊床板橋（補剛桁吊床板橋）

上流へ架ける橋
全長 112m
一主塔単径間P C吊床板橋



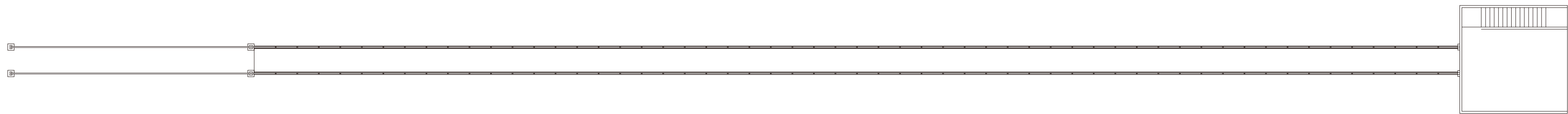
平面図 1/300



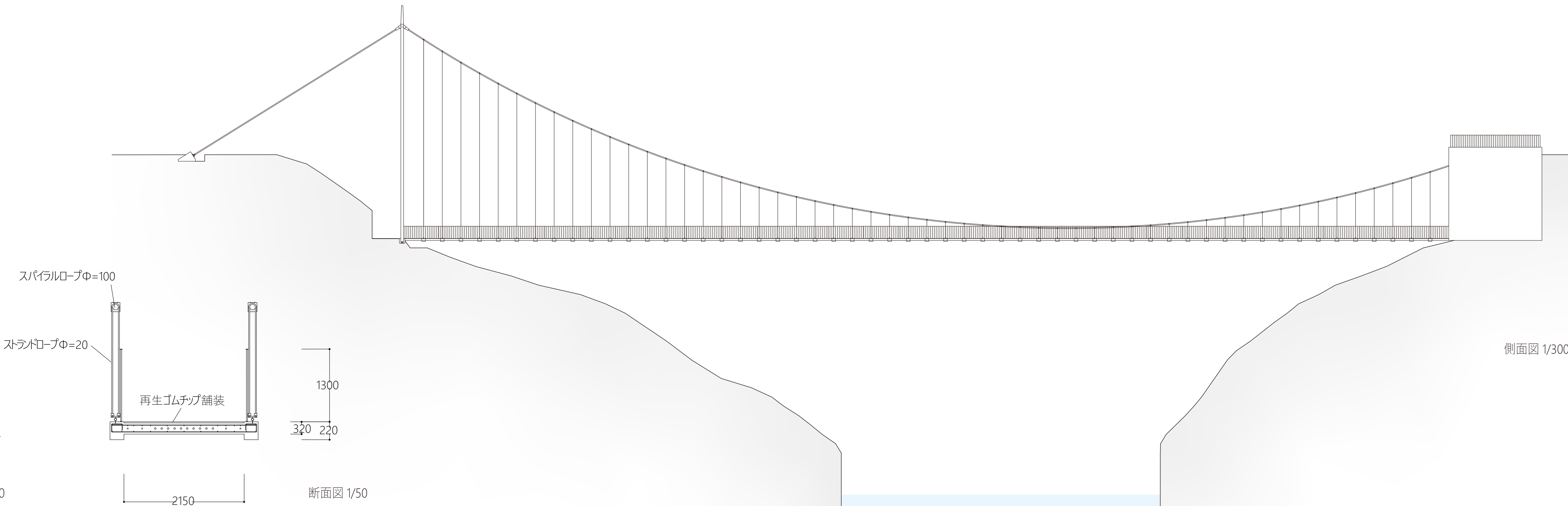
側面図 1/300



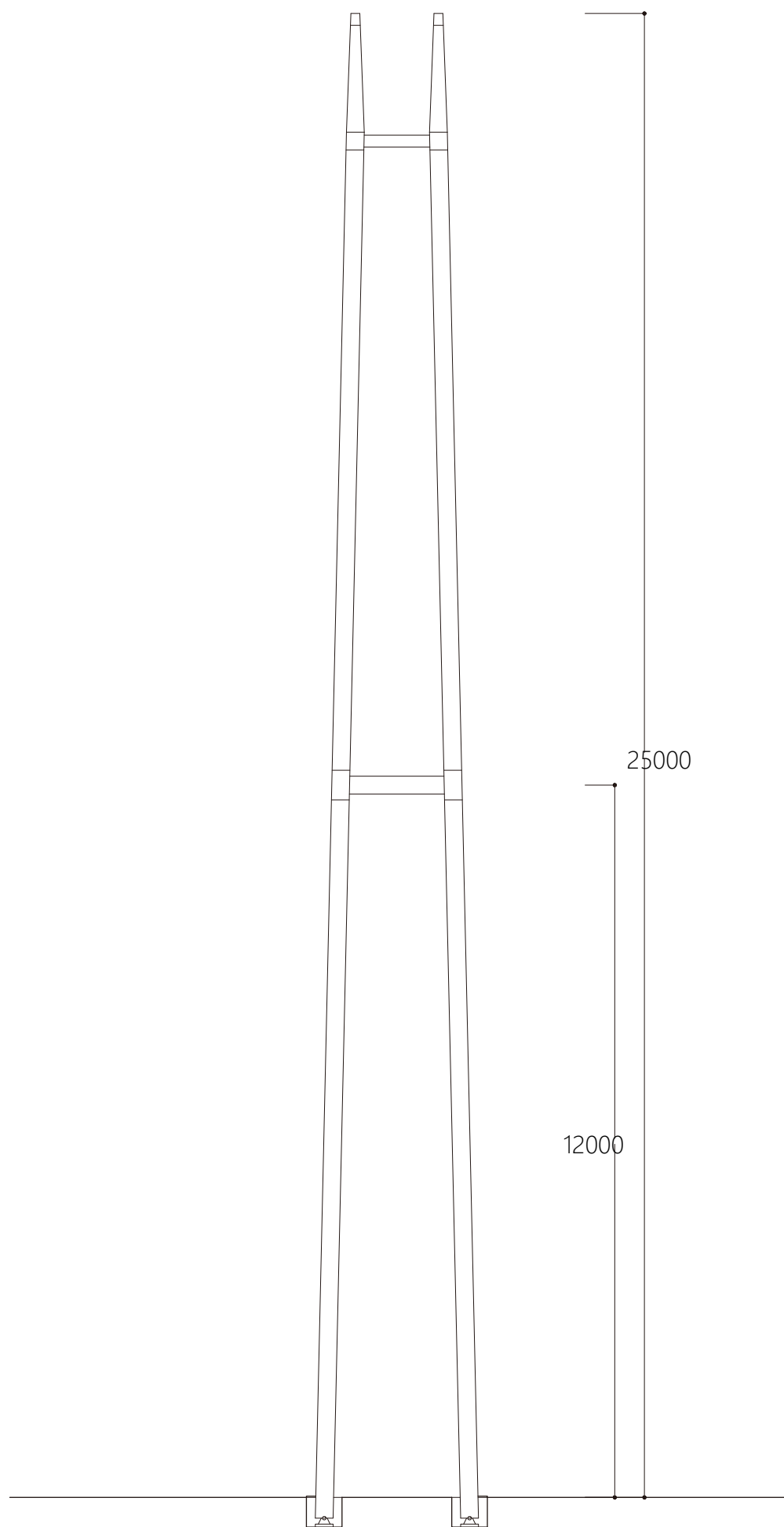
上流の橋



平面図 1/300

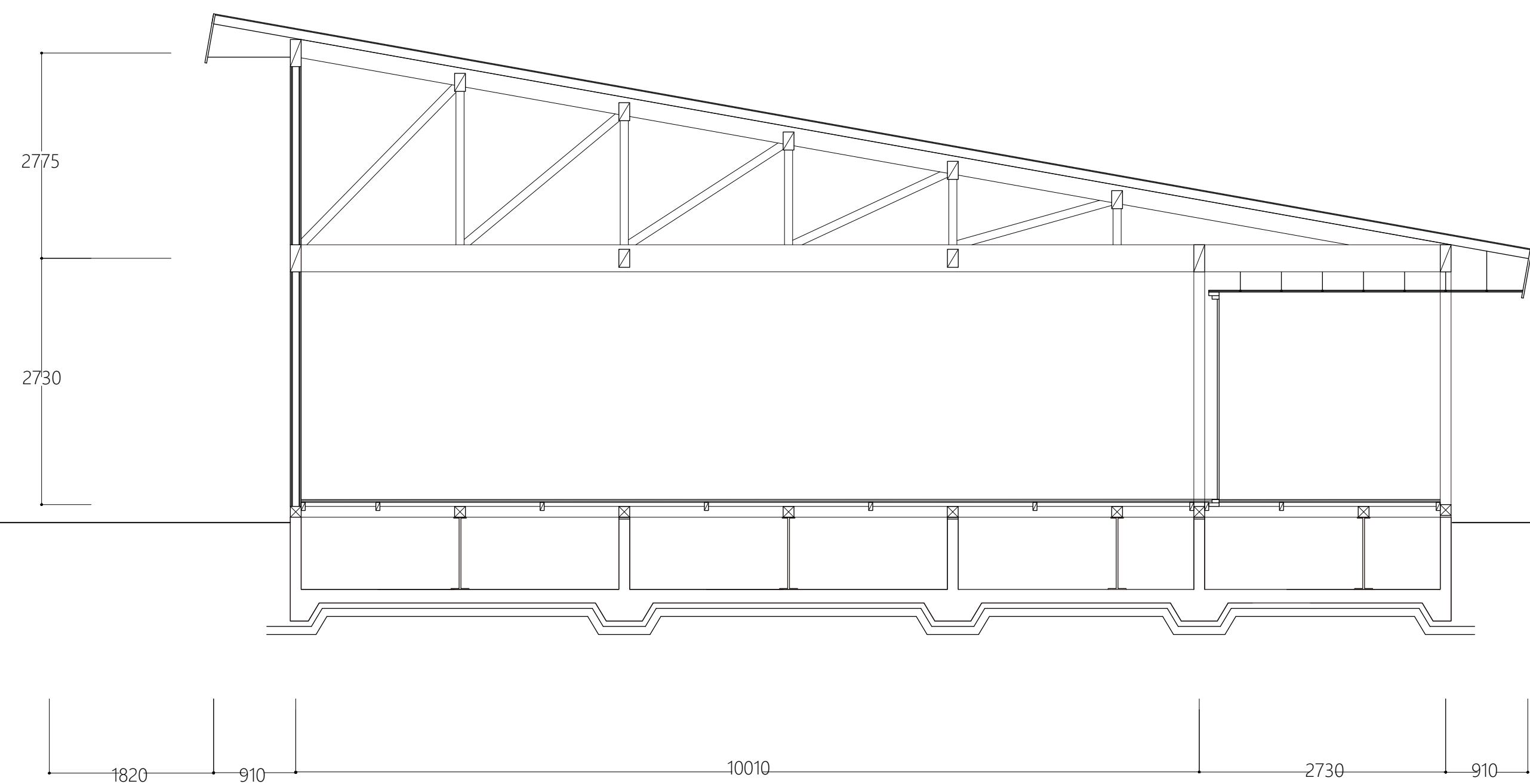
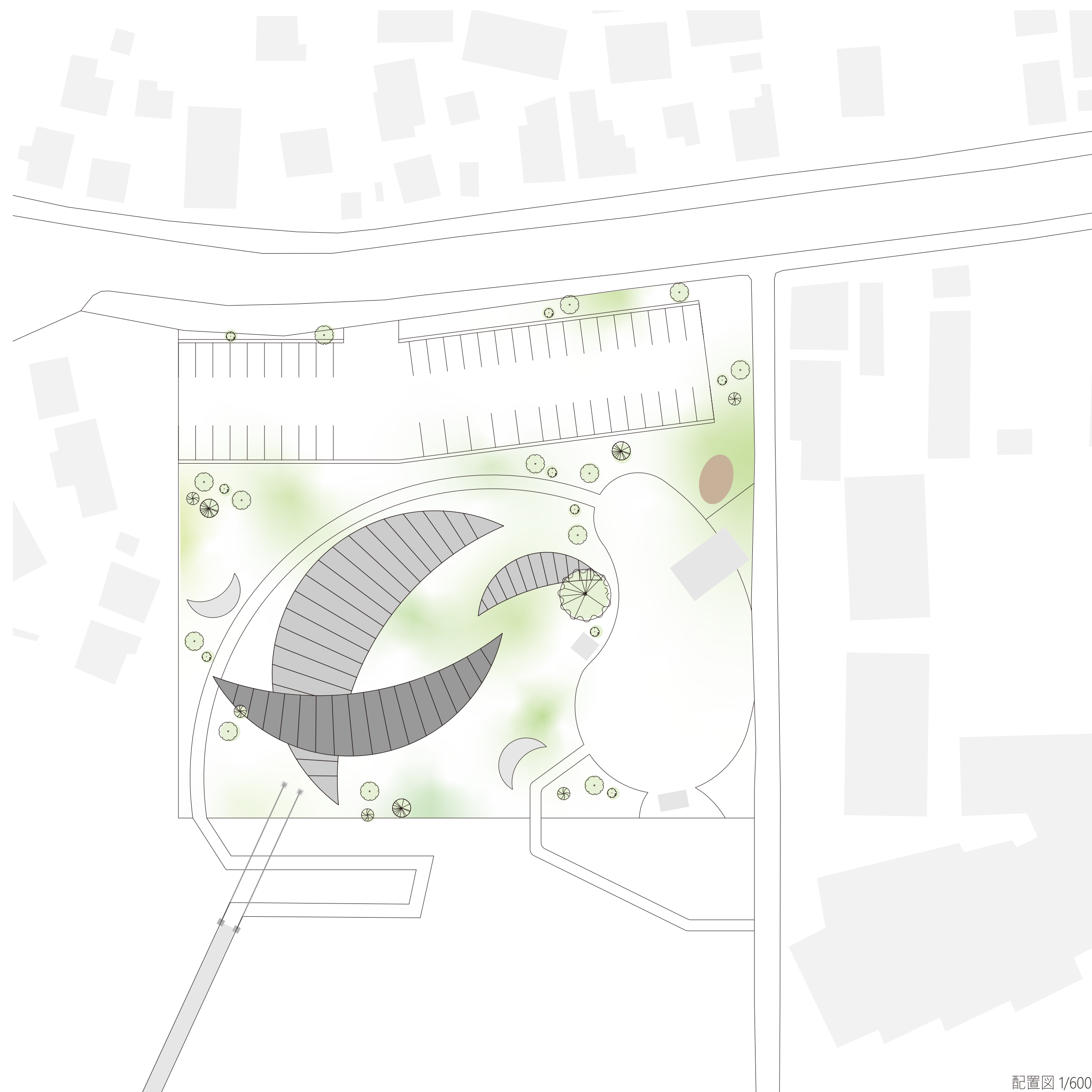


側面図 1/300

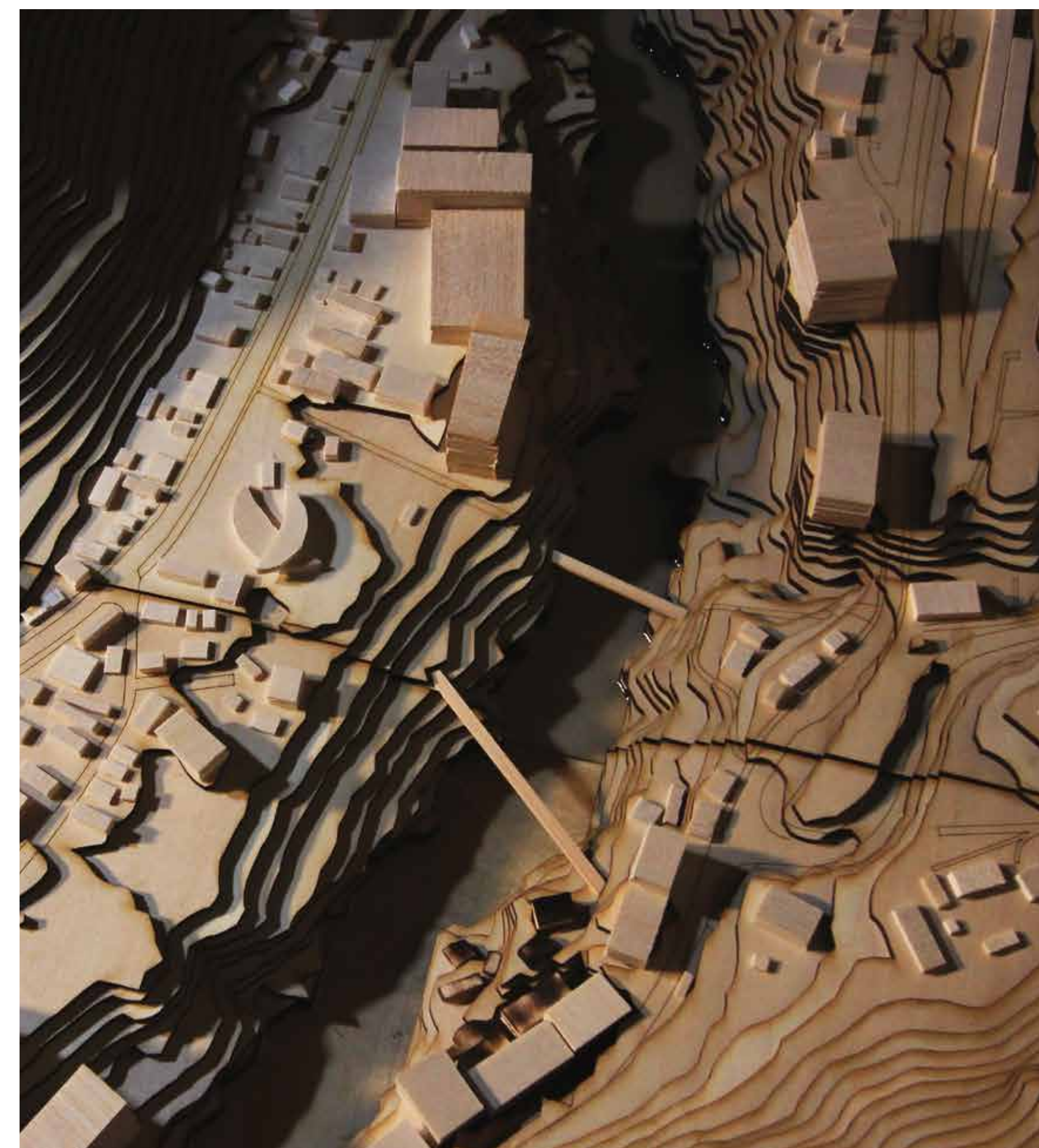
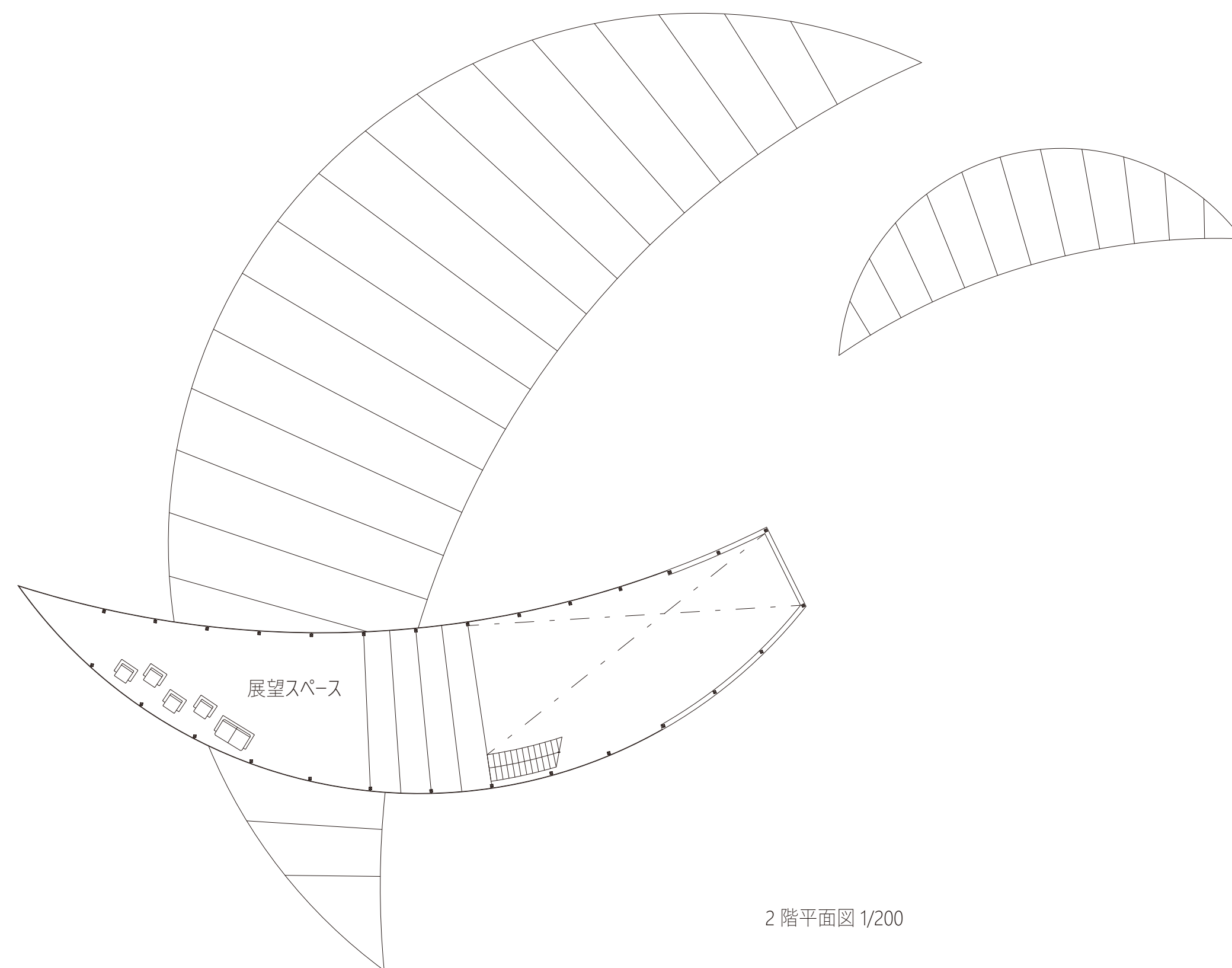
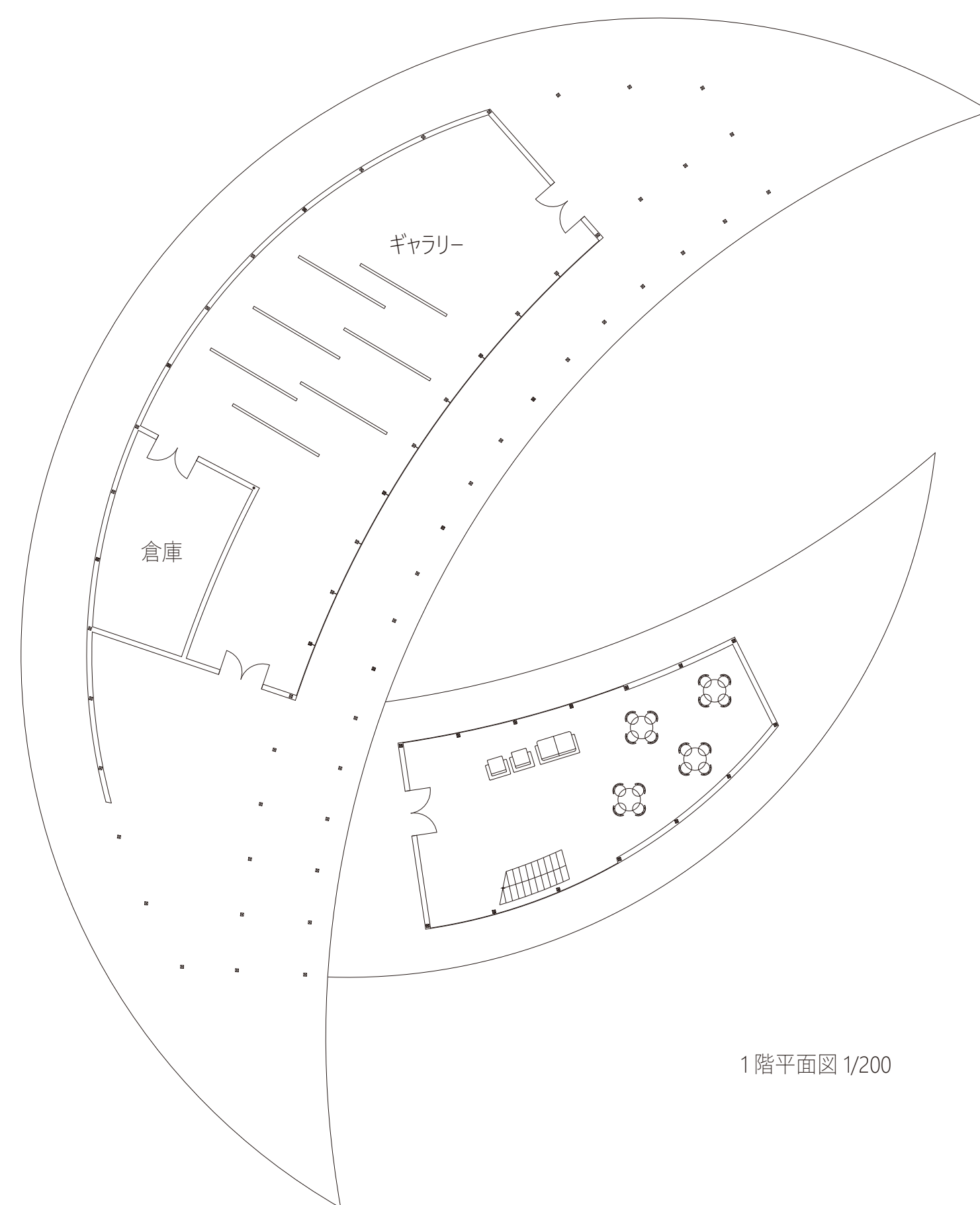


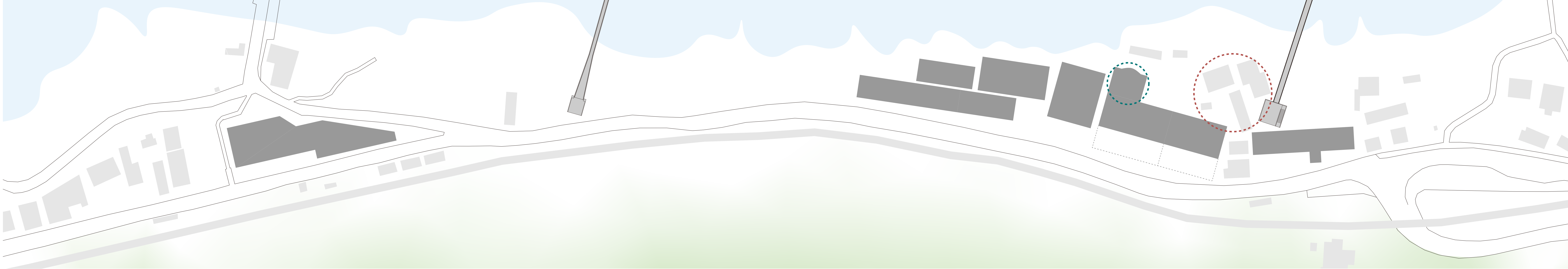
主塔図 1/100

断面図 1/50



上流に新たに架ける橋を渡る際に通り、
エリア全体の活性化の拠点となるような施設。
橋と鬼怒川を見ることができる展望スペースが
あるほか、併設するギャラリーでは鬼怒川温泉や
廃墟のことについて学べる展示等を行う。





- 減築
- 改修
- 撤去後新築
- 手入れをし、現状維持

各平面図 1/400
南側道路沿いからアクセスする階を1階とする。

